



Kodo=Araebisu Nomura Museum
野村胡堂・あらえびす記念館

令和6年度

館報

24

館報 第24号

発刊にあたって

令和6年度は、当館開館30周年の前年にあたり、開館30周年プレ企画として、企画展「野村胡堂・あらえびす記念館のあゆみ～開館から30年の思い出～」を開催しました。

会期を前期（平成7年～平成21年の15年間）・後期（平成22年～令和6年の15年間）に分け、時系列順に開館からの出来事を展示しました。来館者に当館30年のあゆみを振り返り、当時を懐かしんでもらう企画展としたことで、今年の開館30周年を盛り上げる機運の醸成と周知に繋がる良い機会となりました。

今展では、過去に開催された企画展で展示した資料の中から前期39点・後期48点を厳選し展示しました。前期は、開館時のPRポスターや画家に憧れていた胡堂自筆の風景画のほか、胡堂がコレクションした浮世絵、歌川広重の「東海道五十三次」の中から2点、特別に展示しました。後期では、画家の松本竣介、小説家の江戸川乱歩らが胡堂に送った書簡、「銭形平次捕物控」を執筆する際に参考にした江戸切絵図、報知新聞の記者だった頃を振り返った「もう一度記者になりたい」の直筆原稿など、貴重な資料を展示しました。加えて、当時の写真や紫波町広報をパネルにして展示したことで、見学者から「懐かしい」という声を多く聞きました。

そのほかにもレコードコンサート・文章講座・胡堂塾・胡堂講座、学校との連携等、幅広い年代の方々に「胡堂・あらえびす」の業績をはじめ芸術文化にふれる機会を提供してまいりました。

開館30周年の今年も当館が調査・研究の場、生涯学習としての学びの場、芸術文化にふれる場、憩いのひとときを過ごす場として、多くの方々に利用していただきますよう努めてまいります。

令和7年7月

野村胡堂・あらえびす記念館
館長 長澤 成喜

目 次

発刊にあたって

1	施設の概要・沿革	1
2	令和6年度事業実績	
(1)	第40回野村記念講座	2
(2)	あらえびすりレーコンサート	2
(3)	講座・塾（あらえびす文章講座・胡堂講座・胡堂塾）	3
(4)	あらえびすレコードコンサート（名曲喫茶・蔵出し・出張）	3
(5)	あらえびすレコード定期コンサート	4
(6)	企画展	
	開館30周年記念プレ企画	
	「野村胡堂・あらえびす記念館のあゆみ	
	～開館から30年の思い出～」	6
(7)	連携する団体との交流	20
3	寄付者ご芳名	21
4	入館者・運営費・レファレンス及び収蔵資料利用	21
5	特定非営利活動法人野村胡堂・あらえびす記念館協力会	
	令和6年度主な自主事業実績	21
6	施設の利用案内	22

施設の概要・沿革

(1) 事業概要

基本構想	完了	平成4年 3月10日
基本設計	完了	平成4年11月30日
建築工事等	着手	平成5年12月17日
建築工事	完了	平成6年11月28日
工事等	完了	平成7年 3月28日
※一部展示工事等は平成7年5月20日		

(2) 建物概要

敷地面積	16,363.87㎡
建築面積	1,276.08㎡
のべ床面積	1,103.41㎡

(3) 施設概要

展示室1	ホール1	研究室1
収蔵庫3※	図書室1	読書室1 他
※内1はレコード収蔵庫（平成24年3月完成）		

(4) 工事費

基本設計	20,085千円
用地測量、地質調査	3,914千円
実施設計・監理	49,337千円
建築工事	428,480千円
駐車場整備	7,210千円
電気設備	54,487千円
機械設備	70,761千円
一般・映像展示	53,355千円
案内標識、その他	16,213千円
植栽(かたくりの丘含む)	16,318千円
合計	720,160千円

(5) 設計監理

基本設計	監修：吉武泰水 製作：工藤卓、株式会社ディーシー
実施設計・監理	株式会社ディーシー
建築(駐車場含)	株式会社銭高組・株式会社小松組JV
電気設備	岩館電気株式会社
機械設備	岩手水道土木株式会社
植栽工事	むつみ造園土木株式会社
一般展示	日精株式会社
映像展示	コセキ株式会社
測量地質調査	東開技術株式会社
地権者	佐藤豊 佐藤昇 橋本武三 三浦章

(沿革)

年 月	事 項
昭和62年12月	野村胡堂顕彰施設建設懇談会開催（於：彦部地区）。胡堂顕彰施設建設に向けた組織作りが始まる。また、彦部地区野村胡堂顕彰会が発足。
昭和63年12月	東京高田馬場「名曲茶室あらえびす」馬淵巳三子氏よりレコードの寄贈受け、第1回あらえびすレコードコンサートを開催、以後定期的にレコードコンサート開催。
平成元年 7月	在京関係者と町関係者による野村胡堂・あらえびす顕彰懇談会開催（於：東京上野）

年 月	事 項
平成 2年 1月	野村胡堂の顕彰に係る懇談会を開催し、野村胡堂顕彰委員会設立の検討に入る。
平成 2年 9月	野村胡堂顕彰委員会の発足。以後同委員会を随時開催、顕彰施設の建設の検討に入る。
平成 2年12月	野村胡堂顕彰委員会と彦部地区野村胡堂顕彰会が記念館建設について協議。
平成 3年 3月	彦部地区野村胡堂顕彰会が胡堂紹介パンフレット・小冊子作成、顕彰施設建設に向け活動する。
平成 4年 3月	野村胡堂記念館建設基本構想完成
平成 5年12月	野村胡堂記念館建築工事着工
平成 6年 6月	野村胡堂記念館開館準備室設置
平成 6年 7月	野村胡堂・あらえびす記念館開館準備実行委員会が発足。以後開館に向け開催。
平成 6年 8月	東京都教育研究所と所蔵レコードに関する協議。
平成 6年11月	野村胡堂・あらえびす記念館建築工事竣工
平成 7年 2月	東京都より野村レコード・コレクションの贈呈を受ける。
平成 7年 6月	野村胡堂・あらえびす記念館開館第1回野村記念講座開催、以後定期的に記念講座開催。
平成 7年11月	野村胡堂・あらえびす記念館協力が発足し、記念館管理運営へ協力開始。
平成 8年 4月	記念館受付・清掃業務を野村胡堂・あらえびす記念館協力会へ委託。
平成 8年 5月	「第16回東北建築賞作品賞」受賞
平成 8年10月	開館1周年記念「銭形音楽会」開催
平成12年10月	「あらえびすSP名曲決定盤」CDに復刻
平成16年 4月	開館10周年記念収蔵展「挿絵展」開催
平成16年11月	開館10周年式典開催 『野村胡堂・あらえびす来簡集』発刊
平成19年 3月	「あらえびすSP名曲決定盤Ⅱ集」完成
平成21年 6月	開館15周年記念コンサート「亀吉敏子&ルー・タバキンジャズコンサート」開催
平成22年 4月	野村胡堂・あらえびす記念館協力が特定非営利活動法人化する。同法人へ記念館管理運営の一部を委託。
平成23年 1月	岡堂勝行氏より寄附金2000万円を受領
平成23年 4月	岡堂勝行氏よりレコード等約5000枚を受領
平成23年12月	レコード収蔵庫建築工事着工
平成24年 2月	「あらえびすレコード定期コンサート」が第200回を迎える。
平成24年 3月	レコード収蔵庫完成
平成24年 6月	岡堂コレクションレコード収蔵庫竣工式開催
平成24年10月	来館者25万人達成
平成26年 5月	『野村胡堂・あらえびす』発刊
平成26年 6月	開館20周年式典開催
平成28年 4月	指定管理者制度導入
令和 元年 5月	来館者30万人達成
令和 2年 9月	「あらえびすレコード定期コンサート」が第300回を迎える。

第40回野村記念講座

野村記念講座とは、松田智雄（1911-1955・野村胡堂の娘婿）が構想を示し、当館が開館した平成7年以来、毎年、講演とコンサートを併せた形で、胡堂と縁のある東京藝術大学教授などが中心となり開催している講座です。

第40回 野村記念講座

日 時 令和6年10月13日(日)
午後1時30分～午後4時30分
会 場 野村胡堂・あらえびす記念館ホール

第1部 講演会
「作家人生を導いた亡命ロシア人:武谷ピニロピ医師」
講師 熊谷 敬太郎 氏
(作家:第5回野村胡堂文学賞受賞)

第2部 コンサート
出演 中島 諒 (サクソフォーン)
佐藤 卓史 (ピアノ)
友常 昆山 (尺八)
安藤 珠希 (箏)
安藤 政輝 (箏・総合プロデュース)

主 催 野村学芸財団岩手堂子会 / 野村胡堂・あらえびす記念館
入場者 69人



講演する熊谷敬太郎氏



コンサート出演者
(左から安藤(珠)、友常、中島、安藤(政)、佐藤)

あらえびすリレーコンサート

東京藝術大学器楽科有志と一般参加者によるピアノ音楽祭です。

日 時 令和7年3月15日(日) 午後1時30分

会 場 野村胡堂・あらえびす記念館ホール

第1部 一般参加者によるコンサート 9名参加

第2部 東京藝術大学器楽科有志によるコンサート 有森 博教授ほか2名

入場者 66人



藝大出演者
(左から岡世田、有森、伊達)

講座・塾

1 あらえびす文章講座

胡堂と同じ文筆家を目指す、または趣味のある方のために開催する講座です。

■小説コース 講師：平谷 美樹氏（小説家）

全5回（5月11日～7月6日） 受講者：延べ49人

■エッセイコース 講師：豊泉 豪氏（日本現代詩歌文学館）

全5回（5月30日～7月25日） 受講者：延べ45人

■脚本コース 講師：道又 力氏（脚本家）

全3回（11月2日～11月23日） 受講者：延べ8人

特別講義 11月29日（金） 場所：盛岡劇場 受講者13人

2 胡堂講座

■銭形平次捕物控朗読会「平次屠蘇機嫌」

9月1日（日） 受講者：55人

朗読：大塚 富夫氏（IBC岩手放送アナウンサー）

■開館30周年プレ企画 特別講演会「人類が初めて見たブラックホールの姿」

9月8日（日） 受講者：79人

講師：本間 希樹氏（国立天文台水沢 VLBI 観測所所長／教授）

3 胡堂塾 ボランティアガイド養成講座

今年度は、開館30周年プレ企画として、特別カリキュラムで実施しました。

第1回 5月24日（金）野村家の菩提寺・高金寺の見学

第2回 6月14日（金）胡堂の生家見学

受講者：延べ23人

あらえびすレコードコンサート

1 夜の名曲喫茶あらえびす

テーマ「胡堂の探偵小説、謎解きの鍵はショパン」

昨年に引き続き夜の時間帯に開催。音楽が鍵となる胡堂の探偵小説を取り上げ、作品の朗読と作品に登場する曲のSPレコードを蓄音機で鑑賞しました。

8月10日（土） 入場者29人

朗読：工藤 逸奎氏（劇団亜季所属）

喫茶協力：水道橋 Coffee Roastery（オリジナルブレンド「音楽は愉し」）

2 蔵出しアナログ・レコードの時間

あらえびすホールにて、当館で収蔵しているLPレコードの中から、バロック／独奏・室内楽／協奏曲／管弦楽・交響曲／声楽・オペラの順に、選りすぐりの曲を鑑賞しました。

毎月第2・第4水曜日開催（24回） 入場者441人

案内：当館館長

3 出張あらえびすSPレコードコンサート

令和7年1月21日（火） 日詰公民館「ぶっく de 茶ろん4」 参加者11人

解説：当館学芸員

あらえびすレコード定期コンサート

野村胡堂が蒐集したSPレコードのコレクションを中心とする当館所蔵の約1万枚のSPレコードとCD等から、名盤・名曲を鑑賞するコンサートです。

- 第342回 あらえびすのレコードコンサート 4月21日(日)
東京帝大編Vol. 8 講師：当館学芸員
- ♪ バッハ／教会カンタータ第78番「イエスよ、わが魂を」★より第2曲二重唱（指揮：ラインハルト、ラインハルト合唱団★）
♪ バッハ／小フーガ ト短調★（オルガン：シュヴァイツァー★）
♪ バッハ／ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ト長調★（ヴァイオリン：ブッシュ★、ピアノ：ゼルキン★）
♪ バッハ／無伴奏チェロ組曲第3番 ハ長調★ より前奏曲、アルマンド、ジーク（チェロ：カザルス★）
♪ バッハ／ブランデンブルク協奏曲第6番 変ロ長調★ 第3楽章 アレグロ（指揮：ブッシュ★、ブッシュ室内合奏団★）
★印は、あらえびすが選曲したプログラムと、曲目および演奏者が一致する「あらえびすコレクション」SPレコードです。
- 第343回 クラシック名盤『楽聖物語』80 5月19日(日)
ソナタ形式の魅力10 講師：侘美 淳
- ♪ ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 作品111（ピアノ：シュナーベル）
♪ シューベルト／歌曲「死と乙女」D531（アルト：アンダーソン）
♪ シューベルト／弦楽四重奏曲第14番 ニ長調「死と乙女」D810 第1、2、4楽章（カペー弦楽四重奏団）
- 第344回 クラシック名盤『楽聖物語』81 6月16日(日)
ソナタ形式の魅力11 講師：侘美 淳
- ♪ メンデルスゾーン／ピアノ三重奏曲第1番 ニ短調 作品49（カザルス・トリオ）
♪ メンデルスゾーン／交響曲第5番 ニ長調 作品107「宗教改革」（指揮：ミュンシュ、ボストン交響楽団）
※宮城谷コレクションCD
- 第345回 クラシック名盤『楽聖物語』82 7月21日(日)
ソナタ形式の魅力12 講師：侘美 淳
- ♪ シューマン／ピアノ三重奏曲第1番 ニ短調 作品63 第1楽章（カザルス・トリオ）
♪ シューマン／交響曲第4番 ニ短調 作品120（指揮：カラヤン、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団）
- 第346回 クラシック名盤『楽聖物語』83 8月18日(日)
ソナタ形式の魅力13 講師：侘美 淳
- ♪ ブ람ス／ピアノ協奏曲第1番 ニ短調 作品15（ピアノ：バックハウス、指揮：ボルト、BBC管弦楽団）
♪ ブ람ス／交響曲第1番 ハ短調 作品68（指揮：カラヤン、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団）
- 第347回 クラシック名盤『楽聖物語』84 9月15日(日)
ソナタ形式の魅力14 講師：侘美 淳
- ♪ ブ람ス／ヴァイオリンとチェロのための協奏曲 イ短調 作品102 第1楽章
（ヴァイオリン：ティボー、チェロ：カザルス、指揮：コルトー、カザルス管弦楽団）
♪ ブ람ス／ハンガリー舞曲より抜粋（指揮：ヤルヴィ、ロンドン・シンフォニーオーケストラ）
- 第348回 クラシック名盤『楽聖物語』85 10月20日(日)
ソナタ形式の魅力15 講師：侘美 淳
- ♪ チャイコフスキー／バレエ「白鳥の湖」より ワルツ（指揮：クルツ、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団）
♪ チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品35（ヴァイオリン：エルマン、指揮：バルビローリ、ロンドン交響楽団）

記念館開館30周年プレ企画
第349回 あらえびすレコード定期コンサートのはじまり
～平成7年度プログラムより～

11月17日(日)
講師：当館学芸員

平成7年6月プログラム「小品特集」から

♪シューベルト／野ばら（アルト：クルプ、ピアノ：ボス）

平成7年7月プログラム「小品特集」から

♪マスネ／タイスの瞑想曲（ヴァイオリン：クライスラー、ピアノ：ラムソン）

平成7年8月プログラムから

♪フォーレ／ヴァイオリン・ソナタ第1番 作品13 イ長調 第1楽章（ヴァイオリン：ディボー、ピアノ：コルトー）

平成7年9月プログラム「ドイツリート特集」から

♪シューマン／歌曲集『ミルテの花』 作品25 第3曲「くるみの木」（テノール：スレザーク）

平成7年11月プログラム「ショパン特集」から

♪ショパン／練習曲集 作品25 第2曲 ヘ短調（ピアノ：バックハウス）

♪ショパン／第11曲 イ短調「木枯らし」（ピアノ：バックハウス）

平成8年1月プログラム「オーケストラ序曲特集」から

♪ロッシーニ／歌劇『絹のはしご』序曲（指揮：トスカニーニ、BBC交響楽団）

平成8年2月プログラム「シューベルト『冬の旅』特集」から

♪シューベルト／歌曲集『冬の旅』 作品89 D911 第5曲「菩提樹」（バリトン：ヒッシュ、ピアノ：ミュラー）

第350回 クラシック名盤『楽聖物語』86
ソナタ形式の魅力16

12月15日(日)
講師：侘美 淳

♪チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23（ピアノ：ギレリス、指揮：サモスード、ソビエト国立交響楽団）

♪チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23（ピアノ：レオンスカヤ、指揮：マズア、ニューヨーク・フィルハーモニック）※宮城谷コレクションCD

胡堂のディスク・オルゴール〔明治40年ドイツ製〕

♪ヒップ・ヒップ・フーレイ

♪トルガウアー行進曲

♪きよしこの夜

♪チャイコフスキー／交響曲第6番 ロ短調 作品74「悲愴」（指揮：カラヤン、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団）

第351回 クラシック名盤『楽聖物語』87
ソナタ形式の魅力17

1月19日(日)
講師：侘美 淳

♪ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 ロ短調 作品104 第1楽章（チェロ：カサルス、指揮：セル、チェコ・フィルハーモニー交響楽団）

♪ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 ロ短調 作品104 第2楽章（チェロ：フォイアマン、指揮：タウベ、ベルリン国立歌劇場管弦楽団）

♪ドヴォルザーク／チェロ協奏曲 ロ短調 作品104 第3楽章（チェロ：ロストロポーヴィチ、指揮：ジュリーニ、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団）※宮城谷コレクションCD

第352回 クラシック名盤『楽聖物語』88
ソナタ形式の魅力18

2月16日(日)
講師：侘美 淳

♪ビゼー／『アルルの女』第1組曲より 第1曲「前奏曲」（指揮：ピエルネ、コロヌ管弦楽団）

♪ビゼー／交響曲第1番 ハ長調 第1楽章（指揮：ワルター・ゲール、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団）

♪ビゼー／交響曲第1番 ハ長調（指揮：ミュンシュ、フランス国立放送管弦楽団）※宮城谷コレクションCD

第353回 クラシック名盤『楽聖物語』89
ソナタ形式の魅力19

3月16日(日)
講師：侘美 淳

♪ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ第1番 ヘ短調 作品2-1 第1楽章（ピアノ：シュナーベル）

♪ベートーヴェン／交響曲第5番 ハ短調 作品67「運命」第1楽章（指揮：フルトヴェングラー、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団）

入場者（4月～3月）492人

企画展



開館30周年プレ企画 野村胡堂・あらえびす記念館のあゆみ ～開館から30年の思い出～

野村胡堂・あらえびす記念館は平成7（1995）年6月10日、野村胡堂が生まれた紫波町彦部の地に開館した。当館は令和7（2025）年、開館30周年を迎える。

これまで当館は、企画展やコンサートなど、様々な事業・活動を通して、野村胡堂の顕彰及び地域の文化振興の拠点として活動してきた。

今展では開館30周年のプレ企画として、会期を前期・後期に分け、時系列順に開館からの出来事を紹介した。来館者に当館30年のあゆみを振り返り、当時を懐かしんでもらう企画展としたことで、開館30周年を盛り上げる空氣の醸成と周知に繋がる良い機会となった。

開催期間 〔前期〕6月11日(火)～10月20日(日) 114日間
〔後期〕11月6日(水)～令和7年3月16日(日)
106日間 ※休館日は除く

入場者数 1,339人

来場者の声

- ・開館当時からのたくさんの資料を保存されたり、企画展のための準備等々、御努力うかがえます。拝見できてとても良かったです。ありがとうございました。（70代、女性）
- ・来年開館30周年、おめでとうございます。紫波町、岩手になくってはならない記念館だと思います。これからも胡堂さんについてどんどん発信していただき、多くを学ばせていただきたいと思います！！（50代、女性）
- ・ここに本日来てはじめて企画展を知ったが、内容が豊かで貴重な資料を見ることができて、すばらしい時間を過ごせました。（70代、男性）
- ・とても貴重な資料がたくさんあり、興味深かったです。丁寧で楽しい解説ありがとうございました。（50代、女性）

野村胡堂・あらえびす記念館開館まで

野村胡堂の生誕100年にあたる昭和57（1982）年、岩手県立図書館や紫波町中央公民館で生誕100年の記念行事が開催された。同年、胡堂が最晩年に設立した「野村学芸財団」の奨学生だった音楽家有志により、東京において第1回「あらえびすの会」コンサートが開催された。この時期を契機に「野村胡堂・あらえびす」を顕彰しようという機運が、胡堂の故郷・紫波町を中心に高まっていった。

昭和62（1987）年には、紫波町において野村胡堂顕彰施設設立懇談会が開催され、胡堂を顕彰する施設の建設に向けた組織作りが始まった。時期を同じくし、胡堂の地元では彦部地区野村胡堂顕彰会が発足した。

平成元（1989）年、東京で在京関係者と町関係者による野村胡堂・あらえびす顕彰懇談会が開催された。翌2（1990）年には野村胡堂顕彰委員会を発足し、以後、同委員会において本格的に顕彰施設建設の検討に入った。

野村胡堂の生誕110年にあたる平成4（1992）年には野村胡堂・あらえびす記念館建設基本構想が完成し、翌5（1993）年に着工した。

平成6（1994）年6月、野村胡堂記念館開館準備室が設置され、7月には野村胡堂・あらえびす記念館開館準備実行委員会が発足。11月、野村胡堂・あらえびす記念館が竣工した。

平成7（1995）年2月、胡堂が生前東京都に寄贈したSPレコードや蓄音機を中心としたコレクション一式が、紫波町に寄贈された。胡堂の著作・蔵書・書簡・自筆の原稿や絵画・愛用の品々など、多くの貴重な展示資料が揃い、野村胡堂・あらえびす記念館開館の運びとなった。同年6月10日、落成式を挙行、テープカットやくす玉割りが行われ、多くの人々に見守られながら、野村胡堂・あらえびす記念館は開館した。翌11、12日には記念館を無料公開し、初日には4,200人が入館した。

この日から野村胡堂・あらえびす記念館のあゆみが始まったのである。

野村胡堂・あらえびす記念館のあゆみ〔前期〕

平成7（1995）年～21（2009）年

平成7年 （1995） 記念館開館

6月10日 胡堂の故郷・紫波町彦部地区に紫波町初の記念館施設となる「野村胡堂・あらえびす記念館」が誕生。落成式には地域住民や関係者らが出席し、地域の郷土芸能が披露された。



紫波町広報「広報しわ」第479号
平成7（1995）年6月10日発行
【紫波町企画課提供】



野村胡堂・あらえびす記念館
開館日の様子



野村胡堂・あらえびす記念館
全景写真

平成7年 （1995） キャラバン

11月 当館の開館を周知する「岩手県内1,500キロキャンペーン」を開始。岩手県内59市町村（平成7年当時）の庁舎を訪れ、各市町村長から「通行手形」に署名をもらった。



岩手県内1,500kmキャンペーン 通行手形
平成7（1995）年11月13日

平成8年 （1996） 開館1周年

10月 ドラマで銭形平次役を務めた北大路欣也さんを迎え、芝生の特設会場で「銭形音楽祭」を開催。前日には、日詰商店街で手形のモニュメントの除幕式が行われた。11月には、野村学芸財団堂子会が開館1周年記念コンサートを開催。



紫波町広報「広報しわ」第496号
平成8（1996）年11月10日発行
【紫波町企画課提供】

平成8年 （1996） 建築賞受賞

当館が、東北地方の優れた建築作品に贈られる「第十六回東北建築賞作品賞」を受賞。当館の基本設計の監修は吉武泰水氏、設計は工藤卓氏、(株)DC、施工は(株)銭高組と(株)小松組をはじめ大勢の地元業者が関わった。



「第16回東北建築賞作品賞」受賞 賞状
平成8（1996）年5月25日

平成8～9年
(1996～7)
企画展

開館1周年目から定期的に企画展を開催する。胡堂旧蔵の挿絵画家・岩田専太郎、鈴木朱雀、山口将吉郎、小林秀恒による胡堂作品の挿絵原画を、小説の内容とともに展示した。



岩田 専太郎 画
野村胡堂 著『轟半平』挿絵



山口 将吉郎 画
野村胡堂 著『身代り紋三』挿絵



平成10年
(1998)
企画展

4月「あらえびす蓄音機コレクション展」
8月「広重・東海道五十三次展」
10月「広重・東海道五十三次コレクション展」
2月「挿絵原画コレクション展」



歌川広重
東海道五十三次「日本橋」(行書版)

平成11年
(1999)
企画展

4月「あらえびすレコード・レーベル展」を開催。
8月「銭形平次捕物控展」は、胡堂が時代小説を執筆するうえで参考にした貴重な江戸切絵図などを公開。



江戸切絵図
「今戸箕輪浅草絵図」

平成12年
(2000)
企画展

4月「胡堂直筆絵画展」開催。
6月「須川長之助展」開催。須川長之助は紫波町水分の出身で、植物採取研究者として功績を残し、胡堂と同じ紫波町の名誉町民として顕彰されている。



野村 胡堂 画
「淳子の生れた家」
大正12 (1923) 年6月1日

平成12年
(2000)
企画展

9月「胡堂が愛した浮世絵版画展」
10月「あらえびすレコードコレクション展」
12月「胡堂百話にみる、盛岡中学時代の野村胡堂」



CD「あらえびすSP名曲決定盤」
平成12 (2000) 年

現在、第Ⅰ集及び第Ⅱ集のボックスセットは、当館で販売中のほか、紫波町のふるさと納税の返礼品になっている。

平成13年
(2001)
共同企画展

石川啄木記念館との共同企画展「書簡にみる胡堂・啄木」を開催。平成14年に胡堂が生誕120年を迎えるにあたって企画された。盛岡中学時代に交流があった友人らの書簡から、胡堂と啄木のかかわりを紹介した。



猪川浩（箕人）書簡 野村 胡堂 宛
明治36（1903）年3月13日付

盛岡中学の後輩で、胡堂と同じ俳句グループ「杜陵吟社」メンバーだった猪川浩からの書簡。文中で「石川は取るに足らぬ小者也」と、同級生の石川啄木を非難している。

平成14年
(2002)
コンサート

世界的指揮者小澤征爾さんがチェロ奏者のロストロポーヴィチさんと「コンサートキャラバン」で来町。会場となった旧彦部小学校には、児童生徒や地域住民ら約900人が詰めかけた。熱気あふれるなか、世界レベルの演奏が行われた。



小澤征爾氏・ロストロポーヴィチ氏 サイン
平成14（2002）年8月7日

平成14年
(2002)
コンサート

彦部地区教育振興運動実践協議会主催「不来方高校音楽部クリスマスコンサート」を開催。以来20年間、当館ホール（令和3年のみ旧彦部小学校体育館にて）行われ、冬の恒例行事として多くの地域住民が足を運んだ。

平成16年
(2004)
開館10周年

開館10周年記念として「野村胡堂・あらえびす来簡集」を発刊。当館が所蔵する胡堂宛ての書簡から、胡堂の交友関係がわかる書簡の内容をまとめたもの。11月 開館10周年記念式典を挙行。

平成16年
(2004)
開館10周年

記念企画展「挿絵展」開催のほか、胡堂がレオ・シロタ（ピアニスト）演奏のSPレコードを所蔵していたことから娘であるベアテ・シロタ・ゴードンの講演会を開催、後に映画の撮影も行われた。6代目銭形平次・村上弘明さんのトークショーなども開催した。



テレビドラマ「銭形平次」ポスター
村上弘明氏サイン入り
平成16（2004）年6月12日

平成16年
(2004)
企画展

11月「高橋克彦コレクション 新聞錦絵展」を開催。高橋克彦さんは、翌年に当館の名誉館長に就任し、「あらえびす文章講座」など、特に文学関連の事業に尽力。

平成17年
(2005)
寄贈

故渡辺繁夫さんが収集した、作曲家や演奏家、オペラの様子や楽器などが描かれた音楽切手が遺族により寄贈される。
翌年開催の企画展「世界の音楽切手展渡辺繁夫コレクション」にて公開。



音楽切手
「ワーグナー・リヒャルト」
「ワーグナーの楽劇」
渡部繁夫コレクション

平成18年
(2006)
文章講座

将来作家や文筆家を目指す人や興味がある人にむけた「あらえびす文章講座」が開講。
初年度は、作家で当館名誉館長の高橋克彦さんが講師を務めた。現役で活躍する県内作家から直接学ぶことができる、県内でも稀な講座。

平成20年
(2008)
企画展

6月「胡堂を支えたハナ夫人」開催。
妻ハナを紹介する企画展は、開館して以来初めて企画。

平成21年
(2009)
企画展

2月「画家になる夢」開催。
胡堂の直筆絵画を多数展示し、絵画が得意だったあまり知られていない胡堂の一面を紹介した。



野村 胡堂 画
「山の橋」
大正12 (1923) 年8月21日

平成21年
(2009)
企画展

6月「たきびの詩人 異聖歌展」
12月「胡堂作品に見る江戸の文化展」
2月「木版口絵展」
(紫波町教育委員会主催)



異 聖歌 書簡
野村 胡堂 宛
昭和10 (1935) 年1月1日付

平成21年
(2009)
開館15周年

記念コンサート「穂吉敏子&ルータバキンヴィンテージ デュオ コンサート」を開催。
穂吉さんは世界的ジャズピアニストで、当館では何度でも演奏している。

令和6年度企画展 開館30周年プレ企画 「野村胡堂・あらえびす記念館のあゆみ～開館から30年の思い出～」〔前期〕展示目録

No.	資 料 名	年 代	備 考
1	野村胡堂・あらえびす記念館開館ポスター		
2	野村胡堂・あらえびす記念館全景写真		
3	「第16回東北建築賞作品賞」受賞 賞状	平成8（1996）年5月25日	
4	岩手県内1,500kmキャンペーン 通行手形	平成7（1995）年11月13日	岩手県知事 増田寛也氏 NHK盛岡放送局局長 黄海富寿雄氏
5	岩田専太郎画『轟半平』挿絵		平成8年度企画展 「岩田専太郎挿絵展」展示
6	鈴木朱雀画『三万両五十三次』挿絵		平成9年度企画展 「鈴木朱雀挿絵展」展示
7	山口将吉郎画『身代り紋三』挿絵		平成9年度企画展 「山口将吉郎挿絵展」展示
8	小林秀恒画『町人十萬石』挿絵		平成9年度企画展 「小林秀恒挿絵展」展示
9	歌川広重 東海道五十三次 「蒲原」（行書版）		平成10年度企画展 広重「東海道五十三次」展示
10	歌川広重 東海道五十三次 「日本橋」（行書版）		平成10年度企画展 広重「東海道五十三次」コレクション展示
11	江戸切絵図 「今戸箕輪浅草絵図」	嘉永6（1853）年	平成11年度企画展 「銭形平次捕物控」展 展示
12	テレビドラマ「銭形平次」台本 第684話「思案橋の女」		平成11年度企画展 「銭形平次捕物控」展 関係資料 制作フジテレビ
13	テレビドラマ「銭形平次」台本 第685話「人情・一番花火」		平成11年度企画展 「銭形平次捕物控」展 関係資料 制作フジテレビ
14	野村胡堂画「淳子の生れた家」	大正12（1923）年6月1日	平成12年度企画展 「胡堂自筆絵画～画家にあこがれて～」展示
15	野村胡堂画「和見峠から」	昭和9（1934）年8月5日	平成12年度企画展 「胡堂自筆絵画～画家にあこがれて～」展示
16	CD「あらえびすSP名曲決定盤」	平成12（2000）年	音楽之友社
17	野村胡堂宛猪川浩（箕人）書簡	明治36（1903）年3月13日付	平成13年度企画展 「書簡に見る胡堂・啄木～盛岡中学同窓生の 便りから～」展示
18	『文藝春秋オール讀物号』4月号	昭和6（1931）年4月1日発行	平成14年度企画展 「生誕120年 野村胡堂 大衆文学に足跡 を残す」関係資料 文藝春秋社 『銭形平次捕物控』第1話にあたる「金色 の處女」が掲載。
19	捕物作家クラブ会員章（十手）		平成14年度企画展 「生誕120年 野村胡堂 大衆文学に足跡 を残す」関係資料
20	小澤征爾氏・ロストロポーヴィチ氏 サイン	平成14（2002）年8月7日	
21	『Caravan 2002』	平成15（2003）年7月26日発行	キャラバン2002記念誌刊行委員会
22	テレビドラマ「銭形平次」ポスター 村上弘明氏サイン入り	平成16（2004）年6月12日	
23	太田雅光画『美男狩』挿絵		平成16年度企画展 開館10周年記念収蔵展「挿絵展」展示
24	野村胡堂著・太田雅光画『美男狩 前編』	昭和4（1929）年発行	平凡社
25	SPレコード シューベルト作曲 歌曲集「美しい水車小屋の娘」より 第2曲「何処へ」		鮎川コレクション HMV
26	音楽切手「ワーグナー・リヒャルト」 「ワーグナーの楽劇」		渡辺繁夫コレクション 平成18年度企画展 「世界の音楽切手展～渡辺繁夫コレクシ ョン～」展示
27	野村胡堂画「山の橋」	大正12（1923）年8月21日	平成20年度企画展 「画家になる夢」展示
28	野村胡堂画「撫子」	昭和13（1938）年7月	平成20年度企画展 「画家になる夢」展示
29	野村胡堂宛巽聖歌書簡（年賀状）	昭和10（1935）年1月1日付	平成21年度企画展 「巽聖歌～たきびの詩人～」展示
30	野村胡堂宛巽聖歌書簡（年賀状）	昭和11（1936）年1月1日付	平成21年度企画展 「巽聖歌～たきびの詩人～」展示
31	木版口絵展 図録		平成21年度企画展 「木版口絵展」展示 紫波町教育委員会発行
32	第1回 野村記念講座プログラム	平成7（1995）年6月10日	
33	第16回 野村記念講座プログラム	平成14（2002）年10月27日	野村胡堂生誕120年記念
34	第20回 野村記念講座プログラム	平成16（2004）年11月7日	野村胡堂・あらえびす記念館開館10周年記念
35	野村学芸財団会報 第18号	昭和57（1982）年	野村学芸財団発行 第1回あらえびすの会コンサートの記録が 掲載。
36	野村学芸財団設立60周年記念 第28回「あらえびすの会コンサートーあらえびすの継承ー」 チラシ・パンフレット	令和6（2024）年6月22日開催	

※旧字体は、適宜新字体に直しました。

※所蔵者名の無記載は、野村胡堂・あらえびす記念館の所蔵資料です。

野村胡堂・あらえびす記念館のあゆみ 〔後期〕

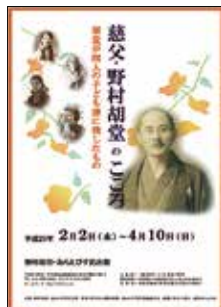
平成22(2010)年～令和6(2024)年

平成22年
(2010)
NPO法人設立

4月 野村胡堂・あらえびす記念館協力が特定非営利活動法人となる。(初代理事長に澤口たまみ氏就任)
同法人が記念館管理運営の一部を委託される。

平成22年
(2010)
企画展

4月「木版口絵展 第二期」(紫波町教育委員会主催)
8月「野村胡堂 ハナ夫人の生きた道
～平成の今に女性の生き方を学ぶ～」
翌年2月「慈父・野村胡堂のこころ
～胡堂が四人の子ども達に残したもの～」



野村 胡堂・ハナ 書簡 野村 一彦 宛
昭和7(1932)年9月8日付

胡堂とハナが、箱根で療養中の長男一彦に宛てた書簡。胡堂は江戸時代の時刻を図に書いて説明したり、一彦の言葉を添削している。

平成23年
(2011)
東日本大震災

3月11日 東日本大震災発生。紫波町震度5弱。記念館内資料及び設備に異常なし。
3月 連続189回続いていた「あらえびすレコード定期コンサート」だったが、東日本大震災のため中止。

平成23年
(2011)
岡堂コレクション

横浜市在住の岡堂勝行氏より寄付金とSPレコード等約5,000点が寄付される。
12月 レコード収蔵庫建築工事着工。
翌年3月 完成。
同年6月 収蔵庫竣工式を執り行う。



新設した収蔵庫



完成した収蔵庫には岡堂コレクションをはじめ、SPレコードを中心とした寄贈資料を収蔵している。

平成24年
(2012)
生誕130年

6月 胡堂生誕130年記念企画展「胡堂がささえた人々」を開催。
10月 胡堂生誕130年を記念し、特別対談「創作ということ」を開催。(高橋克彦名誉館長、内館牧子氏)



舟越 保武 書簡 野村 胡堂 宛
昭和29(1954)年1月2日付

平成24年
(2012)
25万人達成

10月 来館者25万人達成。



25万人目は埼玉県在住の藤居隆夫氏
(左から2人目)

平成25年
(2013)
没後50年

4月 胡堂没後50年企画「没後50年の集い」開催。
特別対談（高橋克彦名誉館長、鈴木文彦氏）や胡堂の
ご令孫の住川碧氏による思い出語り、村松文代アナウ
ンサー（IBC岩手放送）による朗読が行われた。
6月 胡堂没後50年記念企画展「胡堂が遺したもの
～未来へつなげて～」を開催。

平成26年
(2014)
開館20周年

野村胡堂・あらえびす記念館が開館20周年を迎え、
記念式典を開催。顕彰活動に尽力した方々に感謝状を
贈呈した。記念対談を開催。
(高橋克彦名誉館長、澤口たまみ理事長)

平成26年
(2014)
開館20周年

5月 『野村胡堂・あらえびす「銭形平次」
と「音楽評論」を生んだ岩手の文士』（文
藝春秋社）発刊、全国の書店にて発売。
6月 開館20周年記念企画展「歌川広
重「東海道五十三次」野村胡堂『三万両
五十三次』」開催。



『野村胡堂・あらえびす
「銭形平次」と「音楽評論」を
生んだ岩手の文士』
野村胡堂・あらえびす記念館、
道又力共編
平成26(2014)年5月31日
文藝春秋社



歌川 広重
東海道五十三次「宮」（行書版）

平成28年
(2016)
指定管理者制度

4月 記念館に指定管理者制度が導入され、特定非営
利活動法人野村胡堂・あらえびす記念館協力が野村
胡堂・あらえびす記念館の指定管理者に選定された。
以後、現在まで記念館の管理運営を行っている。

平成28年
(2016)
嶺 貞子氏表彰

10月 第34回野村記念講座開催。野村学芸財団最初
の奨学生、声楽家嶺貞子氏の最後の出演。開館から野
村記念講座の企画に携わった長年の功績がたたえら
れ、紫波町から教育文化功労表彰された。平成30年
に逝去。(享年82歳)



長年の功績がたたえられ、表彰された嶺貞子氏

平成29年
(2017)
野村館長退任

3月 野村晴一館長退任。平成7年の開館準備から携わり、記念館事務局次長を経て18年3ヶ月（平成11年1月～平成29年3月）の長きにわたり、館長を務めた。
長年の顕彰活動が評価され、紫波町から自治功労表彰された。



長年務めた館長を退任した野村晴一氏

平成29年
(2017)
デジタル録音

資料保全のため、約7,000枚の「あらえびすSPレコードコレクション」のデジタル録音作業開始。現在まで作業継続中。



あらえびすコレクション
デジタル化作業の様子

平成30年
(2018)
ハナ記念企画展

6月 野村ハナ生誕130年・没後50年記念企画展
「ハナをめぐる人の環
～日本女子大学所蔵資料より～」開催。



上代タノ書簡 野村ハナ宛
昭和38(1963)年1月18日付

ハナの学生時代からの親友・上代タノ（当時日本女子大学学長）の書簡。二人の母校である日本女子大学の新図書館建設に際し、胡堂とハナからの寄附に対する礼状。



平成30年
(2018)
企画展

11月 プレ挿絵展
「挿絵画家 中一弥が描いた銭形平次の挿絵
～文藝春秋オール讀物 銭形平次捕物控より～」
12月「中一弥 挿絵展 ～野村胡堂『隠密縁起』より～」



『隠密縁起』挿絵
中一弥画 2点
昭和15～16(1940～1941)年



平成31年
(2019)
30万人達成

5月 来館者30万人達成。



30万人目は神奈川県在住の桑原威夫氏(中央)

令和元年 (2019) 企画展

4月特別展「続・中一弥 挿絵原画展
～野村胡堂『隠密縁起』より～」
6月「胡堂と盛岡中学時代の友人」
12月「ジャーナリスト・野村胡堂
～報知新聞記者として～」



「も一度記者になり度い」
野村胡堂 直筆原稿
原稿用紙13枚
令和元年度新収蔵資料

令和元～2年 (2019～2020) コロナ禍

4月 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
16日間の臨時休館。
翌年2月 新型コロナウイルス感染症対策のため、換
気・空調設備強化工事を実施。30日間の臨時休館。
その他、各種事業・イベントの中止や延期、規模を縮
小して開催するなど、感染状況にあわせて対応した。

令和2年 (2020) レコードコンサート

9月 開館当初から続いている「あらえびすレコード
定期コンサート」が第300回を迎えた。



開館した平成7年から毎月開催していた「あらえびす定期レコードコンサート」
が300回を迎えたことを記念し、野村晴一理事長と杉本勉館長(当時)による朗読
「対談 胡堂とあらえびす」など特別プログラムを行った。

令和3年 (2021) 啄木鳥探偵處

5月 特別展「胡堂交友録 ～アニメ『啄木鳥
探偵處』にみる実在の文士たち～」を開催。
前年4月 アニメ『啄木鳥探偵處』放映開始。
アニメ版オリジナルキャラクターとして「野村
胡堂」が登場。



令和3年 (2021) 4館合同企画

6月 4館(石川啄木記念館、盛岡市先人記念館、
盛岡てがみ館、当館) 合同企画『啄木鳥探偵處』
スタンプラリー in岩手を開催。
7月 4館合同企画 トークイベント「おしゃ
べり学芸處～学芸員はみた! アニメ『啄木鳥探
偵處』～」を開催。

「4館合同企画『啄木鳥探偵處』
スタンプラリー in岩手」
チラシ、台紙、スタンプ
令和3(2021)年

令和3年 (2021) 平次誕生90年

6月『銭形平次捕物控』発表90年記念企画展
「平次誕生の一年
～その男、苦み走った好い男～」開催。



『文藝春秋オール讀物号』8月号
「銭形平次捕物控 幽霊にされた女」
昭和6(1931)年8月1日発行 文藝春秋社

令和4年 (2022) 生誕140年

11月 野村胡堂生誕140年記念企画展
「胡堂とふるさと～わが郷土への郷愁
(ノスタルジア)～」を開催。
翌年3月 記念対談「胡堂のふるさと」
を開催。(野村晴一氏、八重嶋勲氏、コー
ディネーター長澤聖浩氏)



「故郷之写生」野村 胡堂 画
明治41(1908)年7～9月

令和5年 (2023) 没後60年

6月 野村胡堂没後60年記念企画展
「野村胡堂への鎮魂曲(レクイエム)」
を開催。
10月 読売新聞盛岡支局共催あらえび
すレコードコンサート「野村胡堂への鎮
魂曲(レクイエム)」を開催。



『文藝春秋オール讀物号』9月号
「平次と生きた二十七年一筆を折るの弁一」
昭和32(1957)年9月1日発行 文藝春秋新社

令和6年 (2024) 開館30年目

野村胡堂・あらえびす記念館が開館30
年目を迎え、開館30周年プレ企画を実施。
6月 企画展「野村胡堂・あらえびす記
念館のあゆみ ～開館から30年の思い
出～」開催。
9月 特別講演会「人類が初めて見たブ
ラックホールの姿」開催。(本間希樹国
立天文台教授)



本間希樹氏
(国立天文台水沢VLBI観測所所長/教授)
令和6年9月8日

科学だけではなく、あらえびすの功績に触れ、
芸術や音楽についても語った。

令和6年度企画展 開館30周年プレ企画 「野村胡堂・あらえびす記念館のあゆみ～開館から30年の思い出～」〔後期〕展示目録

No.	資 料 名	年 代	備 考
1	野村一彦宛野村胡堂・ハナ書簡	昭和7(1932)年9月8日付	平成22年度企画展 「慈父・野村胡堂のころ ～胡堂が四人の子ども達にのこしたもの～」展示
2	S Pレコード ロッシーニ作曲 歌劇「ウィリアム・テル」より 第4幕「おお、もの言わぬ涙の隠れ家よ」	1903年録音	平成23年度企画展 「あらえびすが愛した音楽家たち ～レコードコレクションより～」展示 フランチェスコ・タマーニョ(テノール) 岡堂コレクション
3	S Pレコード エミリオ・カルツァネーラ作曲 「教皇様への祈り」	1904年録音	平成23年度企画展 「あらえびすが愛した音楽家たち ～レコードコレクションより～」展示 アレックスandro・モレスキ(カストラート:男性ソプラノ) 岡堂コレクション
4	野村胡堂宛松本竣介書簡	昭和18(1943)年9月29日付	平成24年度企画展「胡堂がささえた人々」展示 便箋4枚
5	野村胡堂宛舟越保武書簡(年賀状)	昭和29(1954)年1月2日付	平成24年度企画展「胡堂がささえた人々」展示 葉書

6	あらえびす著『名曲決定盤』初版	昭和14（1939）年5月3日 発行	平成24年度企画展 「胡堂が語るクラシックの世界 ～あらえびす名曲決定盤～」展示 中央公論社
7	藤倉四郎宛野村胡堂書簡	昭和25（1950）年4月3日付	平成25年度企画展 「平次を愛した鞍馬天狗 ～童話作家・藤倉四郎～」展示 便箋4枚
8	藤倉四郎著『くるみの木の下に』	昭和25（1950）年12月12日 発行	平成25年度企画展 「平次を愛した鞍馬天狗 ～童話作家・藤倉四郎～」展示 ドン・ボスコ社
9	野村胡堂・あらえびす記念館、道又力共編 『野村胡堂・あらえびす 「銭形平次」と「音楽評論」 を生んだ岩手の文士』	平成26（2014）年5月31日 発行	文藝春秋社 記念館受付にて販売中
10	歌川広重 東海道五十三次 「宮」（行書版）		平成26年度 開館20周年記念企画展 「歌川広重「東海道五十三次」 野村胡堂『三万両五十三次』」展示
11	歌川広重 東海道五十三次 「二川」（行書版）		
12	野村胡堂著『三万両五十三次 上巻』	昭和9（1934）年12月12日 発行	平成26年度 開館20周年記念企画展 「歌川広重「東海道五十三次」 野村胡堂『三万両五十三次』」展示 中央公論社
13	野村胡堂宛野村長四郎書簡	明治42（1909）年7月22日付	平成27年度企画展 「父の手紙 ～期待と愛情に満ちた319通」展示
14	八重嶋敷著 『父からの手紙 野村胡堂に注いだ愛情』	平成25（2013）年6月11日 発行	平成27年度企画展 「父の手紙 ～期待と愛情に満ちた319通」展示 岩手復興書店
15	江戸切絵図 「増補改正 麴町永田町外櫻田絵図」	万延元（1860）年改訂	平成28年度企画展 「わっしょい！お江戸の大祭り ～『銭形平次捕物控』にみる江戸の四季と祭り～」展示
16	S Pレコード ヴェルディ作曲 歌劇『アイーダ』より「清きアイーダ」	1902年録音	平成28年度企画展 「胡堂とヴェルディ ～絶対に交わらない二人のよく似た人生～」展示 エンリコ・カルソ（テノール） あらえびすコレクション
17	『GROVE'S DICTIONARY OF MUSIC AND MUSICIANS VOL.V』 （グローヴ音楽事典 第5巻）	1926年発行	平成28年度企画展 「胡堂とヴェルディ ～絶対に交わらない二人のよく似た人生～」展示 シアドアプレス社 全6巻
18	野村胡堂宛江戸川乱歩書簡	昭和17（1942）年4月26日付	平成29年度企画展 「野村胡堂と江戸川乱歩 ～ふたりの作家の交流の記憶～」展示 便箋1枚
19	野田良吉訳 涙香小史閣 『奇中奇談 幽霊塔（前編）』	明治34（1901）年1月1日 発行	平成29年度企画展 「野村胡堂と江戸川乱歩 ～ふたりの作家の交流の記憶～」展示 扶桑堂
20	野田良吉訳 涙香小史閣 『奇中奇談 幽霊塔（後編）』	明治34（1901）年5月17日 発行	
21	野田良吉訳 涙香小史閣 『奇中奇談 幽霊塔（続編）』	明治34（1901）年9月15日 発行	
22	写真（岩手県立高等女学校の友人たちと）	明治37（1904）年11月23日	平成30年度 野村ハナ生誕130年・没後50年記念企画展 「ハナをめぐる人の環 ～日本女子大所蔵資料より～」展示
23	写真（松田家にて団らん）	昭和27（1952）年	
24	野村ハナ宛上代タノ書簡	昭和38（1963）年1月18日付	
25	中一弥画『隠密縁起』挿絵 2点	昭和15-16（1940-1941）年	平成30年度企画展 「中一弥 挿絵展 ～野村胡堂『隠密縁起』より～」展示
26	野村胡堂「も一度記者になり度い」 直筆原稿		令和元年度企画展 「ジャーナリスト・野村胡堂 ～報知新聞新聞記者として～」展示 原稿用紙 13 枚
27	あらえびすレコード定期コンサート 第300回プログラム 記念品 記念しおり2点	令和2（2020）年9月20日	令和2年度企画展 「胡堂の愛用品 ～マイ フェイバリット シングズ！～」展示 パーカー
28	万年筆ケース		
29	インク瓶		
30	テレビアニメ『啄木鳥探偵處』ポスター	令和2（2020）年	「啄木鳥探偵處」製作委員会
31	「4館合同企画『啄木鳥探偵處』スタンプラリー in 岩手」 チラシ、台紙、スタンプ	令和3（2021）年	
32	『文藝春秋オール讀物号』8月号 銭形平次捕物控「幽霊にされた女」	昭和6（1931）年8月1日 発行	令和3年度 銭形平次捕物控発表90年記念企画展 「平次誕生の一年 ～その男、苦み走った好い男～」展示 文藝春秋社
33	『The GRAMOPHIL（ザ・グラモフィル） 第1巻第1号』創刊号	昭和5（1930）年3月15日 再版	令和4年度企画展 「The GRAMOPHIL（ザ・グラモフィル） ～あらえびすと仲間たちが創った音楽雑誌～」展示 グラモヒル社 初版2月10日発行
34	野村胡堂画スケッチブック「故郷之写生」	明治41（1908）年7～9月	令和4年度野村胡堂生誕140年記念企画展 「胡堂とふるさと ～わが郷土への郷愁（ノスタルジア）～」展示
35	『文藝春秋 オール讀物』9月号 「平次と生きた二十七年筆を折るの弁」	昭和32（1957）年9月1日 発行	令和5年度 野村胡堂没後60年記念企画展 「野村胡堂への鎮魂曲（レクイエム）」展示 文藝春秋新社
36	野村胡堂宛岩動炎天書簡	明治36（1903）年12月20日付	令和5年度企画展 「拝啓 野村君 ～学友からの手紙～」展示
37	八重嶋敷著 『学友からの手紙 野村胡堂の青春を育んだ書簡群』	令和5（2023）年10月15日 発行	令和5年度企画展 「拝啓 野村君 ～学友からの手紙～」展示 録繙堂出版 記念館受付にて販売中
38	第1回 野村記念講座プログラム	平成7（1995）年6月10日	
39	第16回 野村記念講座プログラム	平成14（2002）年10月27日	野村胡堂生誕120年記念
40	第20回 野村記念講座プログラム	平成16（2004）年11月7日	野村胡堂・あらえびす記念館開館10周年記念
41	野村学芸財団会報 第18号	昭和57（1982）年	野村学芸財団発行 第1回あらえびすの会コンサートの記録が掲載
42	野村学芸財団設立60周年記念 第28回「あらえびすの会コンサートーあらえびすの継 承ー」チラシ、プログラム	令和6（2024）年6月22日	

※旧字体は、適宜新字体に直しました。

※所蔵者名の無記載は、野村胡堂・あらえびす記念館の所蔵資料です。

野村学芸財団とは

「公益財団法人野村学芸財団」は、「世界文化への寄与と東西文化の交流を理念とし、若い人材の育成と新しい文化への助成」を目的として、昭和38（1963）年、胡堂が私財1億円を投じ設立した。胡堂は東京帝国大学法科大学の卒業を目前に、父の他界により授業料滞納で除籍という経験をしており、学問を志す若者を援助したいという思いを持っていたことから、設立に至った。

設立から60年をすぎた財団は、現在も返済義務のない奨学事業及び研究助成事業を行っており、奨学事業では、これまでに高校生・高等専門学校生・大学生・大学院生合計1,239名（1963～2022年）が奨学生として採用されている。このうち、外国人の採用は主にアジアからの留学生179名を数えている。



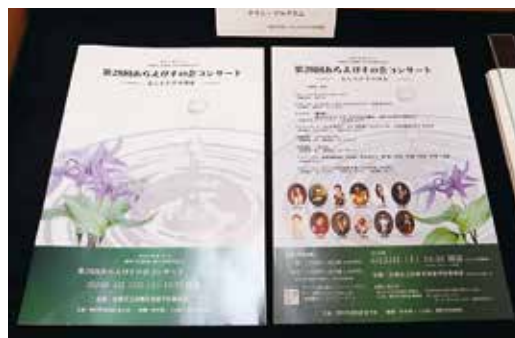
『野村学芸財団会報 第18号』
昭和57（1982）年
野村学芸財団

堂子会とは

「野村学芸財団堂子会」は、野村学芸財団の奨学生だった卒業生たちによって昭和44（1969）年に発足された。「堂子」には「胡堂の子供」の意と、志を同じくする「同志」の意味が込められている。

この堂子会が主催するクラシック音楽のコンサートが「あらいびすの会」である。「あらいびすの会」は野村学芸財団の創立20周年を翌年に控えた昭和57（1982）年に、財団へ恩返しをしたいという思いで奨学生の音楽家有志が立ち上がり、始まった。コンサートの収益金は、財団に寄付されている。東京において第1回あらいびすの会コンサートが開催されて以来、毎年のように開催されてきたが、令和6（2024）年6月22日、第28回目のコンサートが最後となった。

昭和56（1981）年には宮城県・岩手県在住の奨学生らによって、仙台堂子会と岩手堂子会が誕生した。記念館建設の際には、敷地内に各堂子会よりけやきが記念植樹された。また、岩手堂子会は当館と「野村記念講座」を共催している。



野村学芸財団設立60周年記念
第28回
「あらいびすの会コンサートーあらいびすの継承ー」
プログラム・チラシ

野村記念講座とは

「野村記念講座」は、記念館の開館以来、岩手堂子会と野村胡堂・あらいびす記念館が共催している講演会とコンサートである。

野村胡堂の三女稔子の夫、松田智雄氏が構想を示したもので、作家活動のほか、野村学芸財団を設立するなど「野村胡堂・あらいびす」の広範な業績を紹介するとともに、有意義な講演や堂子会会員によるプロフェッショナルな演奏に触れてもらう機会をつくり、胡堂のふるさと紫波町の文化芸術の向上に寄与することが目的である。平成7（1995）年の開館当初から開催され、令和6年で40回を迎えた。財団の奨学生だった音楽家の方々を中心に数々の名演奏と、日本や世界で活躍している著名な方々の講演が行われてきた。



第1回 野村記念講座プログラム
平成7（1995）年6月10日

あらえびすレコード定期コンサートについて

昭和63（1988）年8月の岩手日報に、東京・高田馬場にある「名曲茶室あらえびす」閉店の記事が掲載された。「名曲茶室あらえびす」は、リクエストに応じてクラシック音楽のLPレコードをかける名曲喫茶で、店名は「音楽評論家あらえびす」にちなんでつけられていた。当時は、一般客のほか、店から近い早稲田大学の学生も多く、コーヒー1杯で何時間もレコードを聴いていたという。

「名曲茶室あらえびす」閉店の記事を見た紫波町教育委員会は、翌月、2代目のオーナーである馬淵^{みさこ}巳三子氏に、使用していたLPレコードを紫波町へ寄贈してもらえないか打診した。その後、馬淵氏は紫波町を訪れ、LPレコードとテーブルやソファなど店で使用していた数多くの品を寄贈することに決めた。

昭和63（1988）年10月1日に「名曲茶室あらえびす」が閉店すると、LPレコードをはじめとする品々が運び出され、紫波町の彦部公民館に預けられた。彦部公民館では、同年12月から「名曲茶室あらえびす」の品々を活用し、紫波町に住む音楽愛好家の橋本宏巳氏、阿部正一氏が中心になり「あらえびす名曲レコードコンサート」を始めた。「あらえびす名曲レコードコンサート」は、LPレコードのほか、LD（レーザーディスク）などの映像を使い、曲の解説を加えるなどクラシック音楽に馴染みの少ない地域の人々にも親しみやすく、憩いの場となっていた。彦部公民館での「あらえびす名曲レコードコンサート」は、約7年間、全79回開催され、平成7（1995）年5月の開催をもって幕を閉じた。

その後、野村胡堂・あらえびす記念館が開館し、彦部公民館から引き継ぐかたちで、6月から「あらえびすレコード定期コンサート」が始まった。彦部公民館から受け継がれたこのコンサートは、胡堂が収集したSPレコードを中心に選曲し、今なお続いており、令和2（2020）年9月には300回を迎えた。

現在、野村胡堂・あらえびすの顕彰活動において重要な位置づけである「あらえびすレコード定期コンサート」は、クラシック音楽愛好者や地域の人々にとって音楽を通じた交流の場となっている。

あらえびすレコード定期コンサート第1回（平成7年6月）～現在の講師

阿部 正一 氏（ステレオ愛好家）	平成7（1995）年6月～平成14（2002）年3月
木谷 誠 氏（音楽愛好家）	平成7（1995）年6月～平成14（2002）年3月
橋本 宏巳 氏（ステレオ愛好家）	平成7（1995）年6月～平成16（2004）年3月
木村 達郎 氏（音楽愛好家）	平成7（1995）年6月～平成16（2004）年9月
畑村 邦幸 氏（音楽教師）	平成16（2004）年11月～平成23（2011）年4月
太田代政男 氏（音楽教師）	平成23（2011）年7月～平成27（2015）年3月
フランコ・マウリッリ 氏（音楽学研究家）	平成27（2015）年5月～平成28（2016）年6月
侘美 淳 氏（音楽教師）	平成16（2004）年10月～現在



木谷 誠 氏



畑村 邦幸 氏



侘美 淳 氏



太田代 政男 氏

記念館開館30周年プレ企画展関連レコードコンサート 第349回あらえびすレコード定期コンサート 「あらえびすレコード定期コンサートのはじまり」

記念館開館までのあゆみにふれながら「あらえびす」を冠したレコードコンサート開催の裏側について解説しました。

日 時 11月17日(日) 午後2時～4時

解 説 当館学芸員

プログラム

♪野ばら／シューベルト	♪マスネ／タイスの瞑想曲
アルト：ユリア・クルプ	ヴァイオリン：フリッツ・クライスラー
ピアノ：ケーンラード・ボス	ピアノ：カール・ラムソン
平成7年6月プログラムから	平成7年7月プログラムから ほか



野村胡堂・あらえびす記念館協力会とは

「野村胡堂・あらえびす記念館協力会」(以下、協力会)は、平成7(1995)年に地域の文化振興と記念館の諸活動の充実を目的として発足した。

平成8(1996)年に記念館受付・清掃業務が委託され、同22(2010)年に特定非営利活動法人となり、記念館管理運営の一部が委託された。平成28(2016)年には協力会が、野村胡堂・あらえびす記念館の指定管理者に選定され、現在に至る。

協力会は令和6(2024)年で法人設立15年目、野村胡堂・あらえびす記念館の指定管理者として9年目を迎えた。

協力会は記念館の管理運営のほか、会員からの会費・支援によって、若手音楽家によるサロンコンサートや各種子ども向けイベントなど、様々な活動・主催事業を運営している。現在の会員は573名(令和6年度、個人・法人会員含む)。会員の約8割が紫波町内の会員で構成されている。

協力会は、野村胡堂・あらえびすの功績を広く知ってもらうとともに、地域の文化振興の拠点としての機能を維持し、自主事業を通じて幅広い年代の方々に芸術文化に触れる機会を提供し続けている。

9月には
キッズフェスティバルを開催
たくさん子どもたちが
遊びに来てくれました



「なぜ？」に触れる
科学実験
昆虫や星空の
観察会をしたことも



記念館協力会の
会員限定バスツアーも
毎年開催



毎年大好評の
不来方高校音楽部による
クリスマスコンサート



若手演奏家による
サロンコンサート♪
生演奏に触れる機会を
提供しています



連携する団体との交流

- ・町内小中学校(小学校5校／418人、中学校2校／136人)
- ・盛岡地区人物記念館(3回／23人)
- ・岩手県博物館等連絡協議会(1回／46人)

寄付者ご芳名

【寄付者ご芳名】（寄贈年月日順）

ご寄付いただきました方々に心より御礼申し上げます。

（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

畠山貞子様（書籍／紫波町）、阿部洋子様（書籍／山形県）、八重嶋勲様（レーザーポインター／紫波町）
 柴田裕子様（画集／紫波町）、永曾重光様（SPレコード／東京都）、岩下哲也様（SPレコード／東京都）
 白砂昭一様・徳山美香子様（SPレコード／神奈川県）、熊谷敬太郎様（著書・書籍・CD／埼玉県）
 堺田真実様（台本／名古屋市）、平谷美樹様（著書／金ヶ崎町）、菅原日月日(明)様（著書／福島県）
 山田武秋様（書籍／紫波町）、宮城谷昌光様（著書／静岡県）、森義真様（著書／盛岡市）

入館者・運営費・レファレンス及び収蔵資料利用

(1) 入館者・あらえびすホール貸館状況

年 度	有料入館者数（人）			無料入館者数 （人）	入館者総数 （人）	ホール貸館 （件）
	一 般	子 ど も	団体一般			
令和5年度	979	19	219	6,773	7,990	64
令和6年度	1,116	34	525	6,892	8,567	81

(2) 運営費（千円）

年 度	運営事業費	施設管理費	合 計
令和5年度	14,788	24,460	39,248
令和6年度	16,701	19,080	35,781

(3) レファレンス対応件数 6 件

(4) 収蔵資料利用許可件数 13 件（48点）

特定非営利活動法人 野村胡堂・あらえびす記念館協力会

野村胡堂・あらえびす記念館協力会は、平成22（2010）年4月に特定非営利活動法人としての認証を受け、平成28（2016）年4月から野村胡堂・あらえびす記念館の指定管理者に選定され、記念館の事業運営及び施設管理を行っています。胡堂を顕彰する活動を通して「胡堂・あらえびす」の功績を広く地域に知らしめるとともに、文化振興の拠点としての機能を維持し、自主事業を通じて広い年代の方々に芸術・文化に触れる機会を提供しています。

令和6年度主な自主事業実績

項 目 名	主 な 内 容	開 催 月 日	参加者人数
コンサート	読売新聞共催あらえびすレコードコンサート	R6. 11. 4	50 人
	不来方高校音楽部クリスマスコンサート	R6. 12. 22	86 人
イベント	バスツアー（会員限定）宮城県 鳴子・鬼首等	R6. 7. 1	35 人
	ふしぎな世界 科学	R6. 7. 27	58 人
	夏休み映画上映会	R6. 7. 30～8. 4	54 人
	キッズフェスティバル（共催：河東令和会）	R6. 9. 28	989 人
	冬休み映画上映会	R7. 1. 7～13	78 人

施設の利用案内

1 開館時間

午前9時～午後4時30分
ただし、入館は午後4時まで

2 休館日

毎週月曜日（祝日の場合その翌日）
年末年始（12月28日～1月4日）

3 入館料

個人入館料：一般 /310円 小・中・高生 /150円
団体入館料：一般 /260円 小・中・高生 /100円
※団体入館料は20人以上

5 各種申請手続き及び様式

■あらえびすホール申請手続き

野村胡堂・あらえびす記念館条例第7条(入館等)に基づき、占有的に使用又は利用する場合は、使用許可申請書（別紙様式1）を記念館に提出すること。

様式1

野村胡堂・あらえびす記念館使用許可申請書

特定非営利活動法人
野村胡堂・あらえびす記念館協力会
理事長 内村正義 様

申請者 住所又は所在地
氏名又は名称
使用責任者(団体の場合)
連絡先

野村胡堂・あらえびす記念館を使用したいので、野村胡堂・あらえびす記念館条例第7条第1項の規定により、次のとおり申請します。

使用の目的	使用する施設名 ☐ ホール ☐ 会議室 ☐ 図書室 ☐ ギャラリー ☐ 展示室 ☐ その他()
使用の日時	年 月 日 () 時 分から 時 分まで
使用する設備等	☐ 冷暖房 ☐ 音響機器 ☐ ピアノ ☐ スクリーン ☐ プロジェクター ☐ その他()
入場料の有無	有(その額 円) 無
備 考	

※記念館処理欄

許可の区分	許可 不許可(理由:)
有効年月日 受取番号	年 月 日 第 号
使用料	免除 総額 円 内訳: 使用料 円、設備使用料 円、電気又は冷暖房料 円

決 断 長 事務局長 受 付

(受 付 印)

備考 用紙の大きさ 日本工業規格A4

4 あらえびすホール

■概要

収容 最大120席（イスは可動式）187平方メートル
設備 ピアノ1台、可動式ステージ、スポットライト、
大型スクリーン、プロジェクター使用可能
利用時間 9：00～17：00
（事情によっては21：00まで利用可：要相談）

■使用料（1時間毎）

区分	入場料		無料		有料	
内訳	申請者住所又は職場		紫波町内	町外	紫波町内	町外
	普通使用料		280円	840円	420円	980円
	設備使用料		523円	523円	523円	523円
	特別使用料	冷房料	320円	320円	320円	320円
		暖房料	292円	292円	292円	292円
冷暖房無しの場合			800円	1,360円	1,240円	1,500円
夏期：冷房使用の場合			1,120円	1,680円	1,260円	1,820円
冬期：暖房使用の場合			1,090円	1,650円	1,230円	1,790円

※合計使用料額は10円未満切捨て

■入館料等の減免及びその手続き

野村胡堂・あらえびす記念館条例第12条(入館料等の減免)に基づき入館料等の減免等を申請する場合は、入館料減免申請書（別紙様式2）を記念館に提出すること。

様式2

野村胡堂・あらえびす記念館入館料等免除申請書

特定非営利活動法人
野村胡堂・あらえびす記念館協力会
理事長 内村正義 様

申請者 住所又は所在地
氏名又は名称
代表者(団体の場合)

野村胡堂・あらえびす記念館入館料等の免除を受けたいので、野村胡堂・あらえびす記念館条例施行規則第9条の規定により、次のとおり申請します。

免除申請の区分	1 入館料	2 使用料
免除申請の理由		
入館又は使用の日時	年 月 日 () 時 分から 時 分まで	
免除申請の対象人員	人	
備 考		

※記念館処理欄

届 出 決定年月日	年 月 日
理 由 免除 決定額	円
免 除 区分 部下	理由:

決 断 長 事務局長 受 付

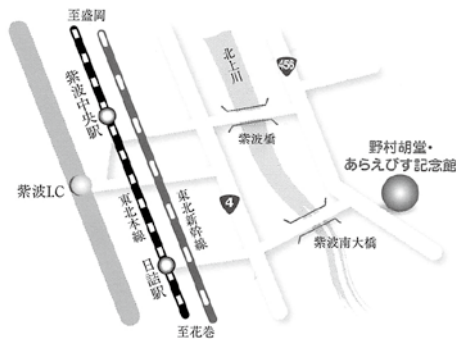
(受 付 印)

備考 用紙の大きさ 日本工業規格A4

6 交通の御案内

JR東北本線日詰駅から車で約6分
JR東北本線紫波中央駅から車で約10分
JR東北新幹線盛岡駅から車で約40分
JR東北新幹線新花巻駅から車で約25分
東北自動車道紫波I.Cから車で約15分

7 案内図



令和6年度 野村胡堂・あらえびす記念館 館報

発 行 日 令和7年7月31日

編集・発行 特定非営利活動法人 野村胡堂・あらえびす記念館協力会
(野村胡堂・あらえびす記念館指定管理者)

〒028-3315

岩手県紫波郡紫波町彦部字暮坪193-1

TEL 019-676-6896・FAX 019-676-6897

印 刷 有限会社 紫波印刷